

「ハンガリー派遣事業に参加して」

まずはじめに、これまでたくさんサポートして下さった皆様、本当にありがとうございました。

今回の派遣事業は、私にとって、「百聞は一見にしかず」という言葉が1番似合う八日間の旅となりました。心からこの派遣事業に参加することができてよかったと感謝の気持ちでいっぱいです。今回の派遣事業を通して、私が特に印象に残っている事は2つあります。

1つ目は、やはりホームステイでの出来事です。初日は団員の皆さんと別れ、それぞれのホストファミリーのもとへ訪問することに緊張していました。相手が英語を通して一生懸命伝えようとしてくれているのに、緊張のせいなかなか聞き取ることができず、苦労しました。しかし、それでも優しく丁寧に接してくれたおかげで、2日目からは携帯の翻訳アプリを徐々に使わないようにして、ある程度の会話ができるようになりました。

優しく迎え入れてくださり、お腹が空かないようにとお菓子を持たせてくれたこと、言葉をお互いに教えあえたこと、素敵な植物園に連れて行ってくれたこと、ずっと心の奥に大事にしまっておきたい思い出をたくさんいただきました。

日本語を学びたいからと携帯のキーボードに日本語を追加してくれた時は本当に嬉しかったです。互いに言葉を教え合う楽しさをホストファミリーは教えてくれました。

最後のお別れでは強く抱きしめてもらい、このご恩や出会いは絶対に忘れないでおこうと誓うことができました。

2つ目に印象に残った事は言語についてです。ホストファミリーとの関わりで、私は言語を紡ぎ合えること、伝えようと努力する楽しさを学びました。しかし、訪問したたんぽぽ幼稚園の子供たちが何かを伝えようとしてくれているのに自分が理解することができなかった、悔しさも同時に感じました。

そのようなことを感じている中で、通訳をしてくださるシピさんの姿は本当にかっこよく、私の憧れの存在となりました。もっと言語について知りたい、理解できるようになりたいと心から感じることができました。

最後に共にたくさんのことを学んだ派遣団員の皆様、サポートして下さった皆様、この魅力溢れる充実した事業に参加させていただき、本当にありがとうございました。

共に付き添って下さった添乗員の方、ハンガリー大使館で出会った外務省の方、空港で案内をして下さった方、そしてシピさんなどから直接話を聞くことができたので、私自身の進路を改めて考える貴重な機会を得ました。

外の世界へ出ることへの大きな期待を見つけられたことが1番の成果です。

「活動報告」

ハンガリー派遣事業の2日目は、日本大使館訪問とブダペスト市内観光でした。日本からの長い移動を経ての2日目でありましたが、団員にはワクワクとした表情や期待に満ち溢れた笑顔が見られました。

ついに素敵な旅が始まるのだと、しっかりと自覚した瞬間をよく覚えています。

初めの訪問先は、日本大使館でした。日本大使館では、大使館での仕事内容、日本とハンガリーのつながりについてお話しいただきました。国の政治や経済についての情報を収集し、課題解決のために努力を尽くしたり、領事の仕事では、旅券や証明書の発給、戸籍の受付、広報活動などを行ったりしているそうです。

日本から約500人位の留学生を受け入れているという話をお聞きした時は、意外にその数が多く、驚きました。日本人がこのようにハンガリーを訪れること、安心した暮らしを豊かに送ることができるのは、こうした機関が存在してくれているからなのだと学ぶことができました。

昼食後は、市内観光でした。ハンガリーの街並みは、さすが観光地だと思うほど素敵な街並みでした。

私が特に印象に残った建築物は、聖イシュトバーン大聖堂と、漁夫の砦です。聖イシュトバーン大聖堂は、高さが96メートルもあり、カメラに収まりきらないほど迫力満点な建築物でした。一つの細かい模様や彫刻、大理石、火の灯るろうそく、パイプオルガン、光の入り方までもが、美しいという言葉では、表現しきれないほど綺麗なものでした。漁夫の砦には、ブダペスト市内が一望できる空間が広がっていました。他にも、ハンガリーを代表する刺繍や、青く輝くステンドグラスを見ることができました。

1日ブダペストを見て回ることができ、よかったです。様々な建築物や町並みを見るたびに、歴史を感じ、強く感銘を受け、派遣団員になることができ改めて良かったと思います。そして多く説明をしてくださった、シピさんに感謝の気持ちをしみじみと感じるよい1日となりました。